

令和7年度第1回芽室町総合計画審議会・第1回専門部会 議事録

令和7年7月28日(月) 18:30~20:35

めむろーど2階セミナーホール

《参加者》

審議会出席委員(14名)

貫田会長、太田副会長、廣江副会長、蘆田委員、岩野委員、小池委員、白銀委員、鈴木(昭)委員、鈴木(昇)委員、高橋委員、谷口委員、西村委員、花岡委員、林委員

審議会欠席委員(1名)

小林委員

専門部会出席委員(19名)

嶋野部会長、遠藤副部会長、平谷副部会長、阿部委員、飯島委員、江口委員、大坂委員、片桐委員、川合委員、櫻田委員、佐藤(英)委員、佐藤(渉)委員、宿谷委員、高橋委員、中村委員、西川委員、野崎委員、平岡委員、村山委員

専門部会欠席委員(2名)

黒田委員、丸委員

市民ファシリテーター(1名)

小寺氏、

事務局

手島町長、有澤政策推進課長、大石政策調整係長、村上主査、河井主任、天野主事

《内容》

1 開会

政策推進課長

定刻となりましたので、令和7年度第1回総合計画審議会・第1回総合計画審議会専門部会を開催する。合同開催となるが、審議会の終了予定時間は20時00分とし、その後、専門部会では20時30分まで第2回~第3回で実施するグループワークのデモンストレーションを実施する。

2 町長挨拶

3 委嘱状交付

4 事務局説明

政策推進課長

事務局から（１）総合計画および施策評価について説明する。

事務局

（資料に基づき説明）

5 議事

政策推進課長

続いて議案の５番（１）会長及び副会長の選出に移る。芽室町総合計画審議会条例では会長１名、副会長２名、選出は委員の互選となっている。委員の皆さんから推薦はあるか。

委員

さまざまな委員をやらせ、広い視野をお持ちの貫田正博委員を会長に、太田寛孝委員と廣江英幸委員を副会長に推薦する。

政策推進課長

ただ今委員から推薦があったが、いかがか。

委員

（異議なし）

政策推進課長

それでは、会長は貫田正博委員、副会長は太田寛孝委員、廣江英幸委員にお願いする。続いて（２）部会長、副部会長の選出に移る。審議会同様に、選出は委員の互選となっている。委員の皆さまから推薦はあるか。

委員

嶋野丈治委員を会長に、Aグループは平谷雄二委員、Bグループは遠藤壮介委員を副部会長に推薦する。

政策推進課長

ただ今委員から推薦があったが、いかがか。

委員

(異議なし)

政策推進課長

それでは、部会長は嶋野丈治委員、Aグループの副部会長は平谷雄二委員、Bグループの副部会長は遠藤壮介委員にお願いします。

それでは、貫田会長、太田副会長、廣江副会長は前方の席へお移りいただく。

ここで貫田会長より挨拶をいただく。

貫田会長

(挨拶)

政策推進課長

それでは配付資料「総合計画関係条例」の1ページ、第5条第3項をご覧いただきたい。会長は会議の議長となることが定められている。このことから、ここからの進行は会長にお願いします。

会長

それでは議案6番、特別講話に移る。本日は、北海道大学教授の山崎幹根様にお越しいただいている。山崎様、よろしく申し上げます。

6 特別講話

北海道大学公共政策大学院山崎幹根教授から、資料に基づき講演が行われた。

◎はじめに

- ・外部評価をする意味とは事務局の説明でもあったように、PDCAという言葉があるが、行政はPには力を入れるし、世論もマスメディアも関心を向けているが、その後の成果については関心が向けられていないことが多い。だからこそ、やると決めたことを追跡してチェックするということが大事。
- ・毎年審議会を開いて点検・評価をしているということは素晴らしい。芽室町は住民の皆さんと総合計画を手作りで作って、その手作りの総合計画を、毎年チェックしている。実はこうしたことを十数年間やっている地方自治体は全道・全国でもほとんどない。また、言いつばなし、聞きつばなしでなく、預かった意見を担当部局にぶつけてフィードバックしている自治体はない。良き伝統である。
- ・住民の皆さんの外の目が重要。役場内部でマネジメントシートにより自己評価している上に、なぜ住民の皆さんにも評価していただくかということだが、行政の自己評価

は甘くなりがち。そして自己評価だけをずっと続けているとマンネリ化してくる。そういうことのないように、外の方の目を入れて緊張感をもってやっていくということが大きな意味。

- ・評価の仕方については絶対的・客観的な評価の方法・基準が確立しているわけではないため、ベストな方法はなくベターな方法で、みんなで議論することが大切である。

◎施策評価のアプローチ

- ・評価をするときの視点は、①普通の町民（生活者）の視点、②民間（納税者）の視点、③自治の担い手、協働の担い手としての視点の3つの視点を持つことが重要。気になることはどんどん質問して、色んな疑問・問題点を洗い出してほしい。

◎評価シートの読み解き方

- ・評価シートの読み解き方のポイントについて。要因を考えることが大事。なぜ指標が下がったのか、なぜ上がったのか、目標値が達成されているか、なぜ未達成なのか、「その要因は何か」を考えることが重要である。
- ・評価シートの読み解き方の他の視点としては、時系列での比較、類似自治体や近隣自治体との比較、国全体の政策や社会的変動などがあるか、住民の側から考慮すべき点があるかなどを併せて考える必要がある。

◎はじめの手がかりとして

- ・まずは分からないことや不明点はなんでも聞いてみてほしい。一町民の立場から遠慮なく意見を出していい。議員さんは選挙で選ばれた代表で、代表としての役割や責任があるが、皆さん方は議員さんではないので日々の生活者として、暮らしや仕事での知見を大事にしてほしい。
- ・（審議会での）コメントは厳しい言い方になっても大丈夫。職員は日々厳しく言われたり追及されることに慣れている。しいて言うならぜひ建設的な批判を。
- ・審議会参加にあたって、特段の準備は必要ないが、可能であれば（広報誌）すまいるを見ていただいたり、町の公式HPに目を通しておくと施策のイメージを持ちやすくなる。

会長

山崎教授、ありがとうございました。ただいまの講話について質問や意見はあるか。

委員

成果指標が施策と結びついていないものがあり、評価がしづらい。
また住民意識調査はアンケート内容を町が考えるため、町が誘導しているのではないか。

山崎教授

成果指標を都度変える方法もあるが長期的に状況を確認していく方法もある。

アンケートは回答者が毎年変わるので、数値も変わりやすい。
次期計画に反映を検討することは重要。

委員

合意プロセスや審議会の内容など、他の町民に伝わっていないのではないか。
それでは、議論しても一部の人の満足で終わってしまう。

山崎教授

議論するということは、濃い情報が出されている。他の住民と共有するのは難しい。
なので、改善を町に要望し改善結果を見せることで町民に伝わるのではないか。

委員

審議会の進め方について、専門部会で話し合った内容に基づいて審議すべきか、一つ一つの内容について質問をして審議したほうが良いのか。

山崎教授

どちらの進め方でも問題はないが、専門部会でも評価等をしているため、細かく一つ一つ審議の必要はないかと思う。

会長

他に意見・質問はあるか。

委員

(意見・質問なし)

会長

それでは議題7今後のスケジュールに移る。事務局から説明をお願いします。

事務局

資料に基づいて、今後のスケジュールについて説明。

会長

ただいまの説明について、または全体を通して質問等はないか。

委員

(質問なし)

会長

質問がなければ以上で審議会を閉会とする。また、専門部会についてはグループワークのデモンストレーションに移る。進行は部会長に願います。

部会長

部会長の嶋野です。よろしく願います。さっそくですが、議案8グループワークのデモンストレーションについて、事務局より説明を願います。

事務局

グループワークの進め方について資料に沿って説明。

その後、事務局職員4名、審議員1名及び市民ファシリテーター1名の合計6名でグループワークのデモンストレーションを実施。

部会長

デモンストレーションについて、質問や意見はあるか。

委員

昨年グループで評価をまとめているところと、まとめていないところがあった。統一しないのか。

事務局

昨年からグループワークの評価を統一しないこととしている。

委員

グループワークのシートは手元に残せないのか。

事務局

提出時にその旨話してもらえればコピーする。

委員

時間は1施策30分で決まりなのか。昨年やってみて、少なく感じた。

事務局

目安としての30分であるため多少の前後は仕方がないが、委員皆さんの時間もあるため、時間は可能な限り守っていただきたい。

委員

シートで事前に整理し、その通り読めば良いのか。

事務局

そういった方法でも良い。

部会長

質問がなければ、

以上で専門部会を閉会とする。お疲れ様でした。

20:40 閉会